マザー・テレサ≪資料≫

・本名：アグネス・ボンジャ・ボヤジュ

・１９１０年、オスマン帝国・コソボ州の生まれ（ルーマニアあたり?）

・数々の賞を受賞（１２ほど）

　有名なのはノーベル平和賞

　受賞の際も普段着のサリーとサンダル履き。賞金の１９万２０００ドルはすべてカルカッタの貧しい人たちのために使われることになった。

　また受賞の際に「晩餐会の費用はすべて、貧しい人々のために使ってほしい」と訴えた。

　賞金を受け取った時は「このお金でいくつのパンが買えますか？」と言ったという。

・「日本人はインドのことよりも、日本の中で貧しい人々への配慮を優先して考えるべきです。愛は先ず手近なところから始まります。」（来日時、寄付を申し出た企業へ）

・キリスト教を布教するためではなく、亡くなった人の宗教で弔いをした。

・カルカッタでは異教徒である彼女は、好意的な目では見られてはいなかったが、ある日、コレラで死にそうなヒンドゥー教の僧侶を引き取り、看取ったことから彼女への見る目が変わってきたという。